

コミュニケーションする力や学ぶ力を育てるために、
目標・学習内容・評価が一体化した指導計画をもとにした英語活動の工夫改善

本校の英語活動の取組の紹介

学校名	瑞穂市立生津小学校
実施状況(学年・回数)	全学年において年間35時間の英語科を実施
年間時数	年間35時間の英語科+毎日10分間の全校英語活動(テレビ放送)
指導体制	HRT, ALT, JTEの3人によるTTで指導 (HRT=学級担任 ALT=外国人指導助手 JTE=日本人の英語担当教員)
その他	文部省(当時)指定研究開発学校(H6~8) 教育課程特例校(H21~)

1 前年度までの実践について

昨年度は、一昨年度に引き続き、単元指導計画の工夫・改善と各単位時間内の指導の工夫・改善を中心にさらに実践を積み重ねた。

1つ目の単元指導計画においては、目標・活動内容・評価に一貫性をもたせる工夫を行った。具体的には、各時間における活動のねらいを明らかにし、それらに対する評価コメントや学期末毎の評価を伝えながら努力や伸びを認め、次への課題を明らかにした。また、「ピザがわが家に届くまで」の単元などでは、社会科や総合的な学習の時間で学んだ内容と関連付けることで子どもたちの興味関心を引き出すように題材を工夫した。

2つ目の単位時間内における指導の改善では、活動の見通しがもてるようなモデルスキットの充実を行った。具体的には、活動の途中で言う中間コメントの中で、児童のよい姿を紹介するだけでなく、逆によくはないモデルもALTとJTEとで示すことで、目指す姿をより明らかにした。

2 英語活動を通して目指す姿

(1) 英語活動を通して願う児童の姿

- ・相手の言いたいことを分かろうと粘り強く聞こうとする。
- ・自分の言いたいことを相手に応じて工夫して伝える。
- ・相手の言いたいことを推測して理解する。

(2) 第5学年までの児童の姿

- ・コミュニケーションを豊かにする言葉(“Here you are.” “Thank you.” “I’m sorry.” “Are you ready?” “O.K.?”)などを自然に使うことができる。
- ・これまでに触れた英語表現を工夫して使用しながら活動を進めようとする。
- ・英語活動の目的が明確な授業では、活動への抵抗感をもつことなく積極的に取り組む。

3 本年度の重点実践内容

3Tによる評価の在り方

- ・それぞれの立場を生かした3Tによる児童全体への評価の在り方(単位時間内)
 - ・HRTとJTEによる児童一人一人への評価の累積とその見届け(単位時間内、単元内)
- 自校カリキュラムと英語ノートとの関わりの明確化
- ・英語ノートの活用

4 具体的な実践

(1) 指導計画

実施学年	6年	指導時期	11月上旬
題材名	Let's travel around the world.		
指導目標	カードゲーム活動やインタビューゲーム活動を通して，世界遺産や世界の国々の文化に関する表現に親しみ，行きたい国を伝え合う。 (全4時間)		
主に扱う語彙や表現	Where do you want to go? I want to go to ~. Guess what? Do you eat ~? Do you have ~? Do you play ~? Please tell me about your flag. U.K.(Big Ben), France(The Eiffel Tower), Egypt(The Pyramids, Sphinx), Chile(Moai), Australia(Ayers Rock), China(The Great Wall), Italy(Colosseum), USA(The Statue of Liberty), Singapore(Merlion), Greece(Acropolis), Cambodia(Angkor Vat), Japan(Great Buddha)		
教材・教具	・世界地図 ・国旗カード ・世界遺産，文化，特産物カード ・パスポート ・ステッカー		

評価の観点	評価規準(実現したい具体的な姿)
言語や文化についての 気付きや体験的な理解	・その国独特のスポーツなど，世界には多様な文化があることに気付く。 ・日本語と類似したあるいは異なった発音の国名があることに気付く。
英語による積極的なコミュニケーションの態度	・自分から進んで仲間に話しかけたり相手の質問に答えたりすることを通して，仲間と温かい言葉をかけ合い，カードゲームやインタビューゲームをしようとする。
音声や基本的な表現への慣れ親しみ	・Where do you want to go? I want to go to What is popular in ...? ... is popular . Anything else? などの表現を使って情報を伝え合う。

単元指導計画

時間	目指す姿	主な活動内容	主に扱う語彙や表現	言語と文化 コミュニケーションの態度 音声や基本的な表現への慣れ親しみ
1	カードゲームを通して，国の名前の言い方に親しみ，ヒントを出したり答えたりするやりとりを楽しむ。	・カルタ取りゲーム 全員が12種類1セットのカードを持ち，ALTの言う国名を聞いてふさわしいものを取る。 ・国旗当てゲーム グループで国旗の色や形のヒントを出し，どの国旗かを当てる。	Where do you want to go? I want to go to ~. Japan, France, Egypt, U.S.A., Australia, Chile, Cambodia, U.K., China, Greece, Italy, Singapore,	日本語と英語の発音の違いや類似点に気付く。 12種類の国の名前をよく聞いて，声に出して言おうとする。 ALTの言うことをよく聞いて，ふさわしいカードを選ぶ。

2	マッチアップゲームを通して、世界遺産などの言い方に親しみ、持っているカードを伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産はどこゲーム ALT が言った世界遺産を地図にあてはめる。 ・マッチアップゲーム 国カードと世界遺産カードがマッチする相手を探す。 	Do you have ~card? Great Buddha, The Eiffel Tower, The Pyramids, The Statue of Liberty, Ayers Rock, Moai, Angkor Vat, Big Ben, Merlion, Acropolis The Great Wall, Colosseum	仲間と温かい言葉をかけ合いながら、ゲームをしようとする。 相手の持っている国や世界遺産のカードを尋ねたり答えたりする。
3	国別インタビュー活動を通して、世界の国々の文化に親しみ、各国の文化を伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・世界旅行インタビューゲーム 各国コーナーへ行き、必要な情報を集めながらシートを完成させる。 	What is popular? is popular in Anything else? Do you have? Do you play ...?	進んで各国のブースをまわり、文化を教えてもらおうとする。 尋ねられたことに対して、適切なステッカーを渡す。
4	行きたい国あてゲームを通して、世界遺産や世界の国々の文化に関する英語に親しみ、ヒントや行きたい国の予想を伝え合う。 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・行きたい国あてゲーム スクランブルで相手が行きたい国を聞いたり、自分が行きたい国のヒントを出したりする。 		進んで仲間と対話し、相手の行きたい国を知ろうとする。 既習の英語を用いながら、行きたい国に関するヒントを出したり予想して答えたりする。

(2) 本時の授業について

子どもが伝えようとする意欲がもてる活動の工夫

本時はそれぞれの児童が行きたい国のカードをもち、スクランブルで相手を見付け、ヒントを出し合いながら、どこの国に行きたいのかを当て合う活動を行う。既習の表現で伝えることができる有名なスポーツや食べ物などをヒントとしたモデルスキットを見せることで、ヒントを使って楽しみながらやりとりをする。さらに、ヒントの中に I like ... などを使って、自分の思いや考えを付け加えられるようなスキットを見せることで、伝えたいという気持ちを高める。また、前時まで集めた各国の「情報パスポート」をもとに、どの子も無理なく活動に参加できるようにする。

多くの子と関わりがもてる活動形態の工夫

6年生となり、活動を通して積極的に情報を伝えたり聞き取ったりすることができる児童を目指し、スクランブル形式の学習形態をとる。一人一人が自分のパスポートを携帯し、興味をもちながら進んで仲間の行きたい国を知ることができるように、必然性のある活動を仕組む。

3Tによるそれぞれの動きと評価の工夫

それまでの評価の累積をもとに、児童への支援を意図的に行うことで、児童の伸びを見届ける。コメントタイムでは、3Tそれぞれの立場を生かした評価を全体の場で行う。

HRT：前時までの児童の姿に基づいて、本時の伸びを全体の場で広める。

ALT：自然な発音、聞き返し表現など自然な英語表現について評価をする。

JTE：ヒントの出し方などの工夫のある表現について評価をする。

過程	主な活動		評価・指導・援助
	児童	教師(HRT・ALT・JTE)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting ・ Song ・ Kids' Time ・ ALT's Topics ・ Activities 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶の後、既習表現を話題にしてやりとりをする。 ・ “ It's a Small World ” を歌う。 ・ 担当の班が中心となって、ミニゲーム活動を楽しむ。 ・ ALT が行きたい国の有名なものなどについて話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ English Leader を支援しながら、児童と挨拶を交わす。 ・ 児童と共に歌い、表情豊かに歌っている子を認める。 ・ リードする児童の話の聞いて反応したり、分かりにくいところは聞き返したりする。 ・ 写真など資料を見せながら、外国の有名なものや食べ物などを紹介する。 	<p>簡単なやりとりを通して英語を使う雰囲気を作る。生き生きと歌っている子を認め励ます。</p> <p>担当の班が活動をスムーズに進むよう促しながら、仲間の説明に反応しながら聞こうとする児童を認める。</p> <p>児童の反応を確かめながら、分かりにくい表現は聞き返したり言い換えたりして援助する。</p>
	<p>行きたい国あてゲームをして、仲間がどこの国に行きたいかを当てよう。</p>		
	<p>< 行きたい国あてゲーム ></p> <p>A: Hello. Where do you want to go?</p> <p>B: Guess where.</p> <p>A: Please give me some hints.</p> <p>B: O.K. Soccer is popular. I like soccer.</p> <p>A: Soccer? Hum... One more hint, please.</p> <p>B: O.K. Paella is popular.</p> <p>A: Paella? I got it! Do they have Moai?</p> <p>B: Yes.</p> <p>A: I got it! I think you want to go to Chile.</p> <p>B: Yes, that's right. Good job! Your turn.</p>		<p>モデルスキットで、本時使いたい質問やそれに対する答え方が理解できるように、丁寧に繰り返したり問い返したりして提示する。</p> <p>ワークシート、ステッカー（食べ物・スポーツなど）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ Comments ・ Greeting 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師によるスキットを見て、本時の活動を知る。 ・ スクランブルで相手を見つけ、交代でクイズを出し合う。 ・ 中間コメントを聞き、後半の活動に生かす。 ・ 前半と同様にスクランブルで後半の活動を進める。 ・ 本時の評価の観点に基づき、自己評価をする。 ・ English Leader や教師による活動の評価を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ モデルスキットを提示し、活動の見通しをもたせる。 ・ 3人の教師による事前の役割分担に基づき、本時での児童の様子を踏まえつつ、児童と一緒に活動する。 ・ 3人の教師がそれぞれの立場で本時みられた子どものよかった姿や伸びを認め、広める。 	<p>ヒントの出し方や質問(問い返し)、答え方が分かるように、キーワードやキーセンテンスをホワイトボードに位置付けておく。</p> <p>大きな声で自信をもって質問したり答えたりすることができない児童には、側について “ Once more. ” や “ Big voice, please. ” などと声をかけて励ます。</p> <p>ワークシート</p> <p>本時のねらいにそって、個々の伸びやよさを評価する。</p>

5 実践の検証と中学校の英語教育との連携や関連

(1) 実践の検証

- ・意識調査では、第6学年の児童の9割以上が「英語活動の時間は楽しい。」と回答している。特に、本単元は今まで他教科等で学んだことを生かせる題材であったため、より意欲が向上したと考えられる。
- ・今まで学んできた英語表現を、柔軟に生かすことができる題材であった。
- ・3Tによる評価をそれぞれの立場を生かしながら行うことができたため、単位時間内の評価を累積し、単元を通した評価とその見届けが確実に進めるようになった。
- ・世界遺産や世界の国々で人気のあることを扱う題材であったため、固有名詞が複雑になりがちであったことが課題としてあげられる。

(2) 中学校の英語教育との関連

- ・英語活動でのやりとりの中に、filler を自然に身につけることは、今後の中学校での英語教育の中でも生かせるものになると考える。

filler : やりとりの gap を埋める言葉。(例 Really? / Are you sure? / Yes, I'm sure. / OK? / I got it! / Good job! / Your turn. / My turn. など)

6 資料

< 黒板の掲示 >

< English Leader >



本時に使用する英語の表現などを掲示しています。
児童が順番に司会進行をします。

< 児童が行う Kids' Time >



自分たちで考えたゲームやクイズを行います。